

## ザ・チャレンジ

(大学受験編)

センター試験まで2カ月を切り、いよいよ受験生にとっては大学入試を間近に控える時期になりました。2017年度入試は私立大学で入学定員が厳格化され、かなり厳しい受験となりましたが、18年度も合格者数の絞り込みは同様に行われるとみられ、一層狭き門となるかもしれません。直前の時期だからこそ焦らず、①基礎基本の徹底を図るとともに、②過去問題の演習を繰り返し行い、③得意科目やあまり手を付けていない科目・分野など、今からでも十分に伸ばすことが出来るものにきちんと取り組みましょう。また、例年以上に首都圏の難関大学合格が難しくなるからこそ、特に考えなければならぬのが私立大学の併願校選びです。

早稲田大学では、17年度入試の一般受験合格者数が16年度に比べて約10%減、青山学院大学に至っては約13%減少しています。合格するラインがそれだけ例年より上

## Q. 私立大の併願校選びは？

がっていると考えれば、受験校の難易度を下げたくなる受験生がいるかもしれません。しかし、大切なことは受験する大学の日程を工夫したり、多様化する入試方式をうまく活用したり、受験する大学の数を増やすなど、「いかに自分の実力を最大限出し切った受験が出来るかどうか」です。

まずは第1志望校を中心に、難易度のバランスを見ながら受験校のスケジュールを立てていきましょう。目安の受験校数は8~10校。第1志望校とそれに準ずる大学を3~4校、10、11月頃の模試結果で合格ラインまであと一歩という大学を3~4校、合格圏内に入っている大学を2校くらい入れて組み立てるのが理想です。志望校の受験日に向けて、徐々に難易度が上がるように受験校の日程を組み立てましょう。合格発表日や手続き締め切り日を考慮することも重要です。

受験校の難易度は偏差値だけでは決まり

ません。模擬試験の結果を客観的に受け止めることはもちろん重要ですが、実際の過去問題を解いて問題傾向を確認したり、得意科目の配点や時間配分、出題形式がマークか記述かを確認するなど、自分の強みを生かせるような大学や受験方式も見つけていきましょう。近年は高大接続改革により入試方式が多様化し、英語4技能の外部検定試験を導入した入試方式も多く取り入れられています。英検やTEAPなどを受験している方は、自分の資格やスコアをうまく活用できないかしっかり確認をしておきましょう。

(CG高等館 東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な“学び”の情報を紹介。今回は小学校編。

大学進学情報紙「TOSHIN TIMES」  
CG高等館 東進衛星予備校各校舎で無料配布中



## A. 難易度を見て計画づくり